

こども・教育

講師募集の  
チラシ

効果はどの程度あったのか  
登録数が4年度に比べ増加した



清水みな子議員(日本共産党) 令和6年2月1日現在、本市の教員は定数より9人少なく、産休なども含めると31人不足しており、教員不足は深刻である。講師募集のチラシが市内に掲示されているが、その効果を問う。また、その他には講師募集をどう呼び掛けたのか。 答 5年度から、講師募集のチラシに2次元コードを載せたことで、時間を問わず気軽に登録できることから、登録数が4年度より増加した。また、チラシ掲示の他には、大学に出向き、教員免許を所有していない人でも学校現場で仕事ができることを説明した。今後、様々なアイデアを取り入れ、講師確保に努めていく。

教育の無償化

無償化に対する本市の考えは  
保護者の負担軽減をしっかりと考える



石崎ひでゆき議員(市民クラブ) 小・中学校の授業料や教科書の費用は無償であるが、使用教材費や修学旅行費などは保護者負担であり、使用教材や修学旅行先等により、多くの費用がかかる学校がある。こうした教育に係る費用は無償にすべきと考えるが、教育の無償化に対する本市の考えを問う。 答 教育の無償化は、教育を通じ、これからの日本を支える子どもたちを育む社会の実現に向けた理想の姿であると考える。教育費の一部が多額の保護者に負担となっていることから、教育格差の是正等を踏まえながら、保護者の教育費の負担軽減につながる対策や支援をしっかりと考えていく。

医療的ケア児

越川雅史議員(無所属の会) 国の法整備に伴い、医療的ケア児などに対し、教育に係る適切な支援が求められている。市は特別支援学

通学支援と学校給食  
どう改善する  
通学支援新制度や給食再調理を検討



校などへの通学支援と学校給食の在り方について、今後どう改善していくのか。 答 特別支援学校などへの通学支援については、県のモデル事業と同様に看護師

インクルーシブ教育

門田直人議員(れいわ新選組) 令和4年1月に本市教員が発達障がいのある児童へ不適切な対応を行ったことにより、傷害容疑で書類送

市の認識と今後の対応は  
本教育の推進に努めていく



検された事案を受け、教員には発達障がいの有無に関わらず全ての子どもが共に学べるインクルーシブ教育への理解が必要と考えるが、市の認識とその推進に向け

学校給食

太田丈之議員(参政党) 現在、我が国の食料自給率は実質一桁台である。食料確保の観点から、輸入に

自然栽培・有機栽培の食材  
積極的に活用に向けて調査研究を進める



が、本市の見解を問う。 答 学校給食の食材等の納入においては、安定的な供給と品質の確保を第一に考えている。今後、国内で自然栽培や有機栽培の食材の生産量が増え、給食提供に

中学校のカリキュラム

ほたけゆうな議員(創生市川) 「本市における教育の特徴は」との問いに対し、胸を張って答えられるコンテンツがあれば、本市が教育

本市で独自に策定できないか  
今後研究していく必要がある



に力を入れている自治体だということも市民は誇りに思うことができると考える。本市は、市立中学校における本市独自のカリキュラムを策定することはできないか。

健康・福祉

3歳児健診

浅野さち議員(公明党) 子どもの目の機能は3歳頃までに急速に発達することから、3歳児健診において、弱視や斜視の早期発見

屈折検査機器を用いた視力検査を  
令和6年度から実施する予定



のために屈折検査機器による視力検査を実施すべきと考えるが、市の見解を問う。 答 令和6年度に屈折検査機器を2台購入する予定であり、準備が整い次第、3

人工内耳用電池の購入助成

小山田なおと議員(公明党) 重度難聴や、補聴器を装着しても音や言葉の聞き取りが不十分な場合、治療法として人工内耳を装着する

負担軽減が必要  
市の考えは  
他市の事例を参考に検討を進める



ことが考えられるが、毎月発生する消耗品等のランニングコストが大きな負担となる。そこで、電池を含む消耗品購入費用の助成について、本市の考えを問う。

認知症チェックリスト

川畑いつこ議員(公明党) 認知症は若い世代でも発症し得るが、早期発見により、症状を遅らせることができる。そこで、認知症の

若い世代への普及に取り組みを  
今後も様々な取り組みを行う



早期発見と、それに資する認知症チェックリストの若い世代への普及が必要と考えるが、市の見解を問う。 答 認知症を早期発見するため、幅広い世代に向けて認知症チェックリストを周知啓発し、活用してもらうことは重要と考える。このため、Arucioのプッシュ通知機能や市公式LINEの情報配信サービスを活用し、登録者に対してチェックリストを周知するなど、今後も様々な取り組みを行い、認知症の早期発見早期対応を推進していく。

きょうだい児

野口じゅん議員(チームいなか) 重い病気や障がいを持つ兄弟姉妹がいる子どもである「きょうだい児」は、多くの場合、様々な悩みや苦

安心して過ごせるような取り組みは  
講義や啓発に取り組み理解を深める



難を抱えている。きょうだい児が安心して子どもらしく過ごせるような取り組みが必要と考えるが、市はどのようなことができるのか。 答 まずは地域や学校、支

援関係者などに理解を深めてもらうため、支援関係者などを対象とした講義や教職員を対象とした研修会を開催するほか、児童生徒に対しては道徳教育や人権教育などを行っていく。また、情報発信や啓発にも取り組むと共に、先進事例などを参考に当事者の居場所づくりにについても研究していく。